

令和5年6月30日

SDG s の取り組みについて

前回(2月21日)の話し合いに引き続き、一度各会に持ち帰っていただき、再度、SDG s の取り組みを実行するための意見交換をしました。

★ それぞれの山岳会から出た意見報告

[愛知県の山の現状]

・愛知の山は、森が深く見通しがきかない、目印や目標となるものが少ない。低い山ほど迷いやすく怖い、道があるようでそこを進むと獣道だったりする。登山口が見つからない、登山口を見つけるのが一番大変。先頭で行く人は事前に下見に行くことも・・・それでも迷うことがある。赤テープの目印をつけて帰りに外す対策などをして登頂したことも多い。

[駐車場問題]

・猿投山の猿投神社駐車場はすぐに満車になり、林道の路駐が増え対策が必要。
・ネットで話題になると、急に人が押し寄せ、地元の人が驚くような状況になった場所が東海地方にもいくつかある。
・地元や地方自治体の取り組みであり我々の力の及ぶ問題とは考えにくい。

[ゴミ問題について]

・「清掃登山キャンペーン」など、ユーザーの多いYAMAPとコラボして取り組みができないか。
・各山岳会が近くの地元の山から、ゴミ拾いからスタートさせてはどうか。拾いながら現状を見てはどうだろう。
・ゴミ拾いの取り組みはもはや古い。山でゴミを故意に捨てる人は見かけなくなった。せいぜい不法投棄のゴミ処理をすることになりかねない。

[里山維持について]

・我田の森(岐阜県可児市)も地権者に声をかけ、緩やかな歩道などよく整備されている。田植え祭りや餅つきなども行われ、今の形になるまで20年かかったと聞いている。
・海上の森、猿投の森も手を加えないとみるみるうちに荒れてしまう。野焼きする、耕作するなど、一つの作業に毎年取り組んでいるからこそ里山環境が維持されている。それを継続させていくのは本当に大変です。

[愛知県の宝物として登山対象の山を維持していく取り組み]

・愛知県には有名な山も高い山もない。愛知県の山が登山対象の山として県民に広く知られるようになったきっかけは「こんなに楽しい愛知の100山」という本の功績によるところが大きい。しかし、初本発行から30年が経過し、荒れ放題とっていい状態の山も多い。これらの山を「愛知県の宝物」としてとらえ、守っていくような取り組みはできないだろうか？

登山者の減少は登山道維持にとって一番影響が大きい。枝がはびこっているような登山者が少ない山に出かけた折、体に触れるように伸びている枝に限って切り取る取り組みはできないだろうか。強制的に！ではなく、先頭の一人二人が枝を切る。全体をきれいにするような作業ではなく、歩きながらのペースで一本の枝を切る程度の取り組みができたならな～と思います。

登山者が増えれば枝葉もはびこらず登山道もはっきりして迷いにくい良い山になる。「低山に出かける時には剪定バサミ携帯で」といった心づもりで出かける仲間を増やす取り組みをしていきたい。

[相互に情報発信し合う取り組み]

それぞれの山岳会が独自に取り組んだ事があれば、ぜひ発信してほしい。また、「今度こんな活動、こんな取り組みをしますよ。参加者歓迎です。」なども事前に発信してほしい。情報交換し合いながら、そして一体となって楽しんできたらいいと思います。

ぜひぜひ情報発信し合いましょう。

★今回の話し合いで申し合わせた自然保護活動への取り組み

- 1 [登山対象の山を愛知県の宝物としてとらえ、登山道を維持していく]→→→
「低山に出かける時には剪定バサミ携帯で」という活動の賛同者を増やし、「体に触れる程度の枝に限って切り取る」活動を広め、登山道の維持に取り組む。
- 2 [相互に情報発信し合う取り組み] →→→「それぞれの山岳会が独自に取り組んだ活動」+「今度こんな活動、こんな取り組みをします。参加者歓迎です。」などの情報交換を相互にし合う取り組みを通して所属団体の一体感を高めていく。

自然保護委員・自然保護指導員の方はこの2つの取り組みを所属団体に還元し、理解を深める取り組みをお願いいたします。